



日本老年行動科学会  
Japanese Society of Behavioral Sciences for the Elderly

## お知らせ No.19

<学会事務局>

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内1-24-1  
電話・FAX：03(5941)5270

<学会ホームページ>

<http://www.soc.nii.ac.jp/jsbse/>

### 会議・催事のご案内

#### 第203回ACSのご案内

日時：2009年5月16日（土） 15:00～17:30  
会場：明治学院大学白金キャンパス 2号館2201教室  
テーマ：「お金や家族に対する心配、不安から不穏、不眠状態に陥ってしまう利用者へのアプローチについて」

発表者：特別養護老人ホーム 更科ホーム 小澤直人氏（介護職員）

2月8日に東関東支部、2月15日に第200回記念ACSで行われた「高齢者事例検討会（ACS）の進め方」では大川副会長を中心とした改善の試みが発表されました。第203回ACSではそのPart2として、佐藤会長・本田副会長を中心とした第2グループの試みについて発表いたします。

日本老年行動科学会の更なる取り組みに、ご期待ください！

詳細・お申込みにつきましては、別紙「ACSのご案内」をご覧ください。

#### 第204回ACSのご案内

日時：2009年6月13日（土） 15:00～17:30  
会場：明治学院大学白金キャンパス  
テーマ：「身体的・経済的虐待が考えられる事例

6月は支部交流企画です！  
大分支部から発表者が上京します

～在宅支援において介護支援専門員がかかわれる範疇～

発表者：泰生の里介護保険プランニングセンター別府 坂本 美保子氏（介護支援専門員）

6月のACSは本部 支部交流企画として、大分からの事例発表です。

介護の悩みは全国共通？それとも地域性があるのでしょうか？

日頃自分の施設で「あたりまえ」と思っていたことも、実はそうではないかもしれません。

遠く離れた支部の事例をもとに、知恵と知識の交流をはかりましょう！

お申込みは5月のACS終了後から受け付けます。

#### 東関東支部ACSのご案内

日時：2009年6月14日（日）13:15～17:00  
会場：茨城県南生涯学習センター小講義室2  
（住所：茨城県土浦市大和町9番1号 ウララビル5階、TEL：029-826-1101(代)）

テーマ：「精神障害のある高齢者へのケア（仮）」

発表者：特別養護老人ホーム相談員

参加費：会員 無料 / 非会員 500円

申し込み・連絡先：〒300-0051 茨城県土浦市真鍋6-20-1

つくば国際大学 産業社会学部社会福祉学科 山本 哲也 まで

TEL：029-883-6139（直通）

FAX：029-883-6139（直通） 9:00～20:00 お願いします。

029-826-6937（代表）

E-mail：t-yamamoto@tius.ac.jp

## 2009年度第2回常任理事会が開催されました

日 時：2009年4月18日（土）12:00～14:30

会 場：明治学院大学白金キャンパス

2号館2201教室

出席者：佐藤会長他17名（欠席4名）

### 議 題

#### 1) 報告・確認事項

本部会計報告・事務報告

会員動向（4月18日現在会員数は686）

各委員会・事業活動報告

支部活動と支部新設の動向報告

・6月に第9番目の支部として京都支部が  
設立されることとなった。

常任理事会と本部ACS開催スケジュール

第12回大会の進捗

・第2号通信を発送予定。

その他

#### 2) 審議事項

ACSの改革に向けての取り組みとスケジュール

・9月の全国大会で2グループの取り組みを発表し、来年3月より完全に新方式へ移行するものとする。

学会の委員会活動・事業に伴う交通費の支給に伴う報告書の提出について

・今後、活動に交通費を支給し、その際には報告書の提出を義務づけるものとする（事業計画に基づき予算化されていることが原則）。

## 第4回老年行動科学講座のご案内

4月下旬に発送させていただきました募集要項はもうご覧いただけましたでしょうか？

今回の講座のキーワードは「行動科学とケア」。

サブタイトル“ケアに活かす行動科学”が示すとおり、本学会の基盤である「老年行動科学」に真正面から取り組んでいきます。

本年度の講座は前年度までと内容を一新した＜中級編＞です。以前の講座を受講された方も、今回初めて受講される方も、ともにご満足いただける内容と自負しております。

また、講座を通じて、講師や他の参加者と交流し、意見交換ができることも魅力の1つです。

募集要項はホームページでもご覧いただけます。

多数の皆様のご参加をお待ちしております！

第1回講座 7月26日（日）『行動科学の方法とケアへの応用』

講師：佐藤 眞一 明治学院大学心理学部教授（本会 会長）

第2回講座 8月30日（日）『ケアプラン策定 ～行動科学的視点から～』

講師：真砂 良則 北陸学院大学人間総合学部 教授（本会 石川支部長）

第3回講座 9月27日（日）『行動科学視点からの事例検討の方法

～対象者の理解と対応～』

講師：大川 一郎 筑波大学大学院 教授（本会 副会長）

第4回講座 10月25日（日）『認知症高齢者の不適応行動の改善策』

講師：宮 裕昭 市立福知山市民病院精神神経科 臨床心理士

第5回講座 11月29日（日）『診る力を養う』

講師：川本 利恵子 九州大学大学院医学研究院保健学部門 教授

（本会 理事）

第6回講座 12月20日（日）『高齢者ケアにおける行動科学の可能性』

講師：第1部 照井 孫久 東北公益文科大学 准教授（本会 評議員）

第2部 宮島 渡 高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ 施設長

（本会 長野支部長）

第3部 照井 孫久 講師と宮島 渡 講師に佐藤 眞一 教授を交えて、  
鼎談「老年行動科学の可能性について」

## 日本老年行動科学会第12回大会 準備委員会より

さわやかな季節となってまいりましたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

大会の準備は着々と進んでおります。4月下旬にお送りいたしました第2号通信に記載しましたとおり、講演やワークショップの詳細も決定いたしました。

スケジュールの概要は次のとおりです。



荒木大会長

<日 時> 2009年9月12日(土)・13日(日)

<会 場> 田園調布学園大学

<プログラム>

- 9月12日(土) 10:00-10:20 開会式  
10:30-11:20 大会長講演 田園調布学園大学教授 荒木 乳根子氏(公開)  
「高齢者の性とケア」  
11:20-12:10 特別講演 厚生労働省老健局長 宮島 俊彦氏(公開)  
「地域ケアと介護保険(仮題)」  
12:10-13:20 昼食  
13:20-14:20 レクチャー:事例検討の進め方(ACS新方式の紹介)  
14:20-17:00 事例検討会・ACS(4室予定)  
17:30-19:30 懇親会
- 9月13日(日) 9:30-11:00 研究発表(4室予定)  
11:10-12:40 ワークショップ  
「タクティールケア(究極の癒し術)入門」  
「介護者がつぶれない認知症ケア~家族介護の現場から」  
「持ち上げない移動・移乗技術  
~介護者の腰痛を防ぎ、利用者の自立を促す」

アロマセラピー、  
ハーブティーも  
ご用意しました

研究発表演題申し込み締切:2009年6月30日(火)消印有効

参加申し込み締切:2009年8月24日(月)

(第2号通信に同封の参加申し込み用紙でお申し込みください)

- <参加費> 正会員:事前申し込みは7,000円、当日参加は8,000円  
非会員:8,000円(大会長講演・特別講演のみの参加:1,000円)  
神奈川県高齢者福祉関係職員:3,500円  
学生(院生含む):2,000円

- <懇親会費> 会員・非会員とも:4,000円  
学生(院生含む):3,000円

演題・参加申し込み先

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1  
筑波大学大学院 大川研究室気付  
日本老年行動科学会第12回大会事務局  
Fax:03-3942-6324  
e-mail:iot21005@human.tsukuba.ac.jp

お問い合わせ等は  
メールかFAXで  
お願い致します。



# ACSに参加してみませんか？

あなたはもうACSに参加されましたか？

ACS（高齢者ケースワーク研究会）は、高齢者の困った事例について検討しアドバイスを  
行う会です。本部主催のACSは毎月1回、東京で行われており、経験豊かな現場のプロや研  
究者がアドバイスします。また、参加者自身も重要なアドバイザーです。あなたの貴重な経験  
や考えをぜひお聞かせください。

参加に資格は要りません。学会員は無料、非会員のみ500円をいただきます。

東京は遠すぎる、という方には支部ACSもございます。支部開催については不定期なため、  
随時この「お知らせ」で開催をご案内してまいります。

## ACSってどんなことをしているの？

ACSにご参加されたことのない方のために、ACSの流れを簡単にご説明いたします。

ACSでは、まず発表者の方が事例について、対象者のプロフィールと数カ月～数年に  
わたるケア記録を、所定の様式に従い、重要と思われる事項を中心に、事前に記録をまと  
めておきます。

その記録をACS参加者に文書で配るとともに、まず発表者が簡単な説明を行います。  
参加者は資料に目を通しながら発表を聞き、疑問点について質疑応答を行います。その後、  
会場の参加者を5～6名程度のグループにわけ、グループ内でその事例についてどんなア  
ドバイスができるかを考えます。グループ内でリーダー、書記、発表者を決定し、グルー  
プ討論の時間が終了したらそれぞれのグループが自分たちの考えを発表します。

一通り発表が終わったのち、コメンテーターが事例についてコメントを行います。さら  
にスーパーバイザーがより広い視野を踏まえて、事例から読み取れること、注目してい  
くべきことを語り、終会となります。

## これからのACS日程・会場について

5月16日（土）第203回 会場：明治学院大学白金キャンパス

6月13日（土）第204回 会場：明治学院大学白金キャンパス

7月11日（土）第205回 会場：筑波大学大塚校舎

（最寄り駅：東京メトロ丸の内線 茗荷谷駅より徒歩2分程度）

8月下旬（土）第206回 東関東支部と共催につき開催期日・会場調整中

9月12・13日 全国大会内でACS発表

10月10日（土）第207回 会場：筑波大学大塚校舎

11月14日（土）第208回 筑波大学入試のため会場調整中

6月は本部 支部交流企画による、  
大分支部からの事例発表です

会場・期日とも、お知らせNo.16でお知らせした一覧から変更されております。  
これまでACSは原則「第3土曜日」とお知らせしていましたが、7月から会場が明治学院  
大学から筑波大学大塚校舎に変更になることに伴い、日程を変更させていただきました。

## 佐藤会長の記憶講座(5)

# 感覚は記憶の始まり

...中央法規出版「りんくる」Vol.5「記憶ってなんだろう」より

「認知症」の主な症状のひとつに記憶障害があります。でも普通の人でも「もの忘れ」はよくあります。「忘れること」にはプラスの効果もあります。事故や事件のつらい記憶が鮮やかによみがえってくるために日常生活がまともにできなくなってしまう人にとっては「忘れることができない」ことが問題です。認知症の記憶障害と、もの忘れはどう違うのでしょうか。そもそも「記憶」とはどんなものなのでしょうか。高齢者研究の第一人者で本学会会長でもある、佐藤眞一先生にその謎を解き明かしていただきます。

なお、本連載は中央法規出版の許可を得て、「りんくる」誌に連載されたものを再掲させていただいています。

「わが家のおじいちゃん(おばあちゃん)は、今、聞いたことすら覚えていない。記憶障害がこんなにひどいので認知症ではないか」と心配して、医療機関や福祉の窓口で相談に訪れるご家族が増えているようです。これは、認知症に対する一般的な理解が進んできたことの表れなのかもしれません。

### 「覚えていない」は認知症？

認知症がまだ一般的に知られていなかった時代、相手の高齢者に私たちの話したことが通じていないと気づいた場合には、まず、「このお年寄りには耳が遠いのではないかと疑ったものです。

高齢者の記憶障害を疑う前に、耳がよく聞こえないのではないかと、目がよく見えないのではないかと考えることは大事なことです。

ただし、目や耳などの五官の衰えた高齢者の中には、はっきりと聞こえなかったり、明瞭に見えなかったりすると、曖昧な返事をする人がいます。その曖昧な返事が、周囲の者に認知症だと思いきませてしまう場合があるのです。

### 感覚・知覚・認知

外界の情報は、まず、五官すなわち感覚器官を通して人の内界に入力されます。目からは光、耳からは音という物理的刺激によって神経系の興奮が生じます。これらをそれぞれ視覚、聴覚とよび、それらを含む五官によって得られる五感を「感覚」と総称しています。

この神経の興奮が、脳の中樞神経系で風景や

音楽などのまとまりをもったイメージ(表象)を形成します。このプロセスが「知覚」です。

得られたイメージが過去の記憶と照合されることによって、それが自分にとって関心のあるものなのかどうか、あるいは、以前に見たこと

や聞いたことのあるものなのかなどの判断がなされ、次のより複雑な情報の処理に向かいます。この段階を「認知」とよぶのです。

前述のとおり、認知症の検査をする際などは、高齢者には感覚機能低下の可能性のあることを私たちは常に念頭におく必要があります。

難聴の方は、質問がよく聞き取れずに、適当な受け答えをしているかもしれないのです。「わからない」というのはプライドが許さないということもあるのでしょうか。しかし、このような場合には点数が悪くとも、認知症の危険性があると判断することはできません。

### 注意と構え

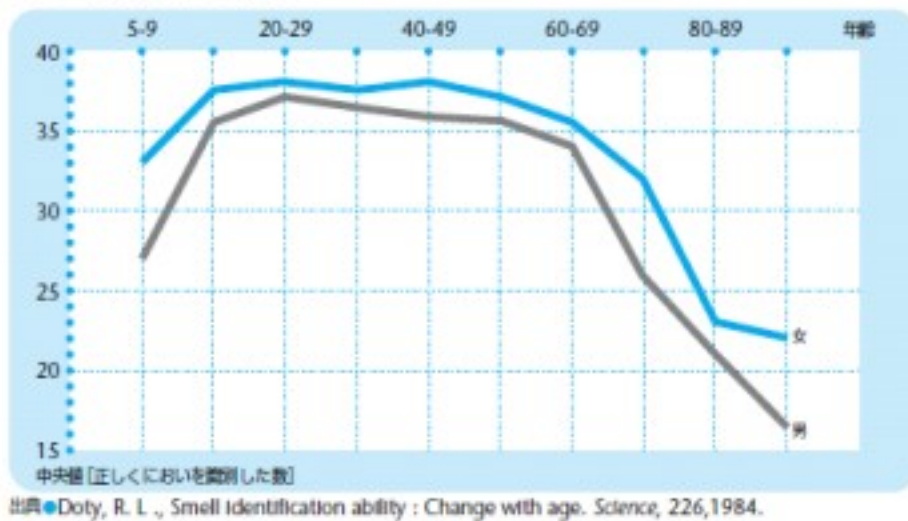
では、感覚器官にそれほど問題がない場合には、外界から入力された情報は、すべて知覚や認知のプロセスに到達するのでしょうか。

手紙を出したくてポストを捜しながら歩いている時、普段、通い慣れた通りなのに、角のたばこ屋さんの脇にポストがあることに初めて気づいた、というような経験はありませんか。



佐藤 眞一 会長

においの識別における年齢差



それまでは、物理的刺激としてポストの映像が視覚に入力されても、「注意」を払うことがなかったために記憶として貯蔵されることがなかったのです。しかし、今回は、手紙を出すという「構え」があったために、遠くからでもいち早くポストの赤い色に気づいたわけです。

こうした注意や構えは、前頭葉の作動記憶（ワーキングメモリー）の働きと考えられています。認知症が進むと、作動記憶の機能が低下するために、こうした注意や構えの働きも低下することがわかっています。

### 映像と音

五官から入力される情報の記憶は感覚記憶とよばれますが、これは映像的印象である「アイコン的記憶」と音の印象である「エコー的記憶」に分類することができます。目を開ければ否応なく風景が映像として飛び込んでくるように、これらは、主体の意図とは無関係に入ってきます。

この印象に注意が向けられたり、あらかじめ何らかの構えによって知覚されたりすると、それは次に短期記憶に送られ、より複雑な認知処理がなされて記憶情報となるのです。

### 味と香り

味覚や嗅覚も記憶と密接な関係があります。味覚や嗅覚を言葉に置き換えるのは難しいですが、懐かしいお袋の手料理の味や丸かじりをしたリンゴの甘酸っぱい香りは、忘れようもない映像的記憶に結びついているものです。

認知症、特にアルツハイマー型認知症の方は、五感の能力低下が顕著であるとの報告があります。視覚や聴覚にもまして、味覚や嗅覚の低下が正常老化に比べて際立って大きいようです。弄便や食糞という異常行動が、そのことを示唆しています。

認知症の方が、味や香りで懐かしい記憶を呼び起こすことが困難なのは本当に残念です。



「佐藤会長の記憶講座」は隔月掲載の予定です。